

Reference D2

Japanese Utility Model Kokai No. 62-58515

Laid-opening date: 11 April 1987

Application No.: 60-147351

Filing date: 28 September 1985

Applicant: MASUYAMA KOGYO KK, Kokanei-shi, Tokyo

Title: Mascara applicator

D2

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭62-58515

⑥ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和62年(1987)4月11日

A 45 D 34/04

A-6671-3B

審査請求 未請求 (全2頁)

⑭ 考案の名称 マスカラ塗布具

⑯ 実 願 昭60-147351

⑰ 出 願 昭60(1985)9月28日

⑱ 考 案 者 益 山 猛 志 小金井市梶野町5丁目7番18号 益山興業株式会社内

⑲ 出 願 人 益 山 興 業 株 式 有 限 公 司 小金井市梶野町5丁目7番18号

⑳ 代 理 人 弁 理 士 寺 田 正 外1名

㉑ 実用新案登録請求の範囲

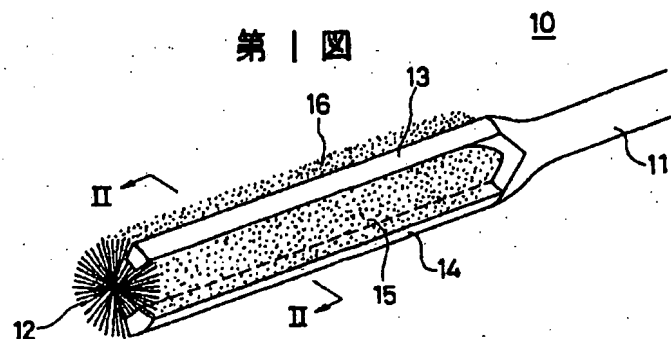
口部に払拭パツキン体を有するマスカラ瓶に入
入させて使用するマスカラ塗布具において、軸体
の先端部に、中央から外方へ放射状に伸びる毛体
を有するブラシを設け、このブラシの周端近くに
軸方向に伸びる仕切部材を設けてブラシの毛先面
を2以上の部分に仕切り、この各部分に、幅、仕
切部材からの毛先の突出凹陥程度または毛体の密
度の異つたものを設け、各部分を使い分けること
によりマスカラの塗着量を変えることができるよ
うにしたマスカラ塗布具。

図面の簡単な説明

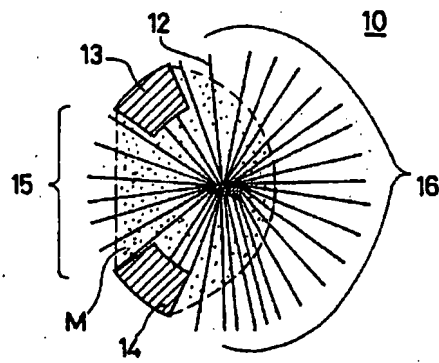
第1図は本考案の第1実施例の斜視図、第2図

は前図のⅡ-Ⅱ線に沿う横断面図、第3図は第2
実施例の横断面図、第4図は第3実施例の横断面
図、第5図は第4実施例の横断面図である。

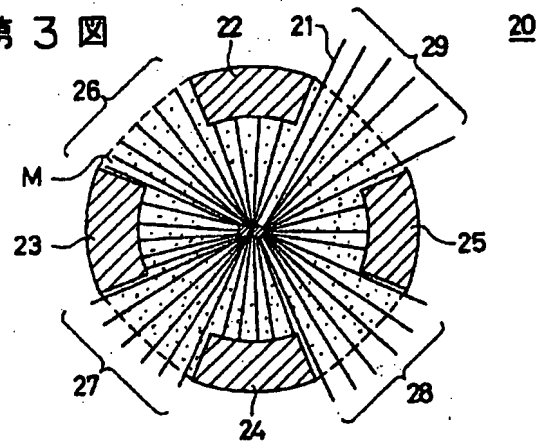
10, 20, 30, 40……マスカラ塗布具、
11……軸体、12, 21, 31, 41……ブラ
シ、13, 14, 22, 23, 24, 25, 3
2, 33, 42, 43, 44……仕切部材、1
5, 16, 26, 27, 28, 29, 34, 3
5, 45, 46, 47……ブラシの毛先面の部
分、M……マスカラ。



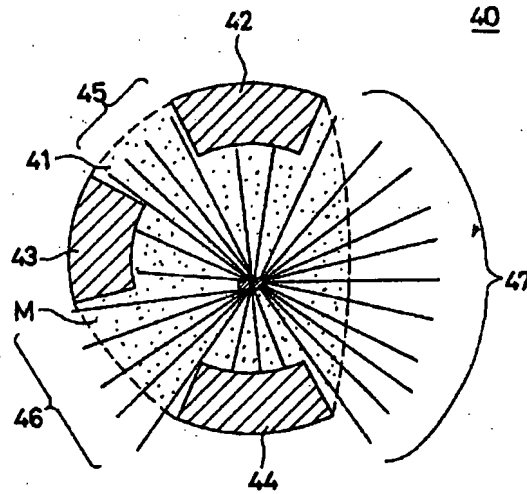
第 2 図



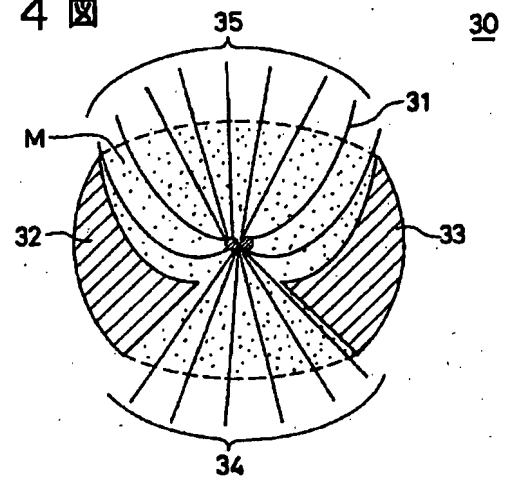
第 3 図



第 5 図



第 4 図



公開実用 昭和62- 58515

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭62- 58515

⑪ Int. Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和62年(1987) 4月11日

A 45 D 34/04

A-6671-3B

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 マスカラ塗布具

⑮ 実 願 昭60-147351

⑯ 出 願 昭60(1985) 9月28日

⑰ 考 案 者 益 山 猛 志 小金井市梶野町5丁目7番18号 益山興業株式会社内
⑱ 出 願 人 益山興業株式会社 小金井市梶野町5丁目7番18号
⑲ 代 理 人 弁理士 寺 田 正 外1名

明 細 書

1. 考案の名称

マスカラ塗布具

2. 実用新案登録請求の範囲

1. 口部に払拭パツキン体を有するマスカラ瓶
に出入させて使用するマスカラ塗布具におい
て、軸体の先端部に、中央から外方へ放射状
に伸びる毛体を有するブラシを設け、このブ
ラシの周端近くに軸方向に伸びる仕切部材を
設けてブラシの毛先面を2以上の部分に仕切
り、この各部分に、幅、仕切部材からの毛先
の突出凹陷程度または毛体の密度の異つたも
のを設け、各部分を使い分けることによりマ
スカラの塗着量を変えることができるように
したマスカラ塗布具。

3. 考案の詳細な説明

産業上の利用分野

本考案はマスカラ塗布具、特に、ブラシを用
い、使用部所を選択することによりマスカラの
塗着量を加減することのできるマスカラ塗布具

(1)

に関する。

従来の技術

マスカラ塗布具は、一般に軸体の先端部に設けられ、口部に払拭パッキン体を有するマスカラ瓶に差込んでマスカラを付着させ、払拭パッキン体で過剰のマスカラを拭つて取出し、使用される。

この塗布具として、各種の構成のものが知られているが、使用感が優れていることからブラシが賞用される。

しかしながら、ブラシを用いると、常にブラシ全体に均一にマスカラが付着するので、使用時のマスカラの塗着量も均一となり、濃淡を使用者の好みに応じて調節することが困難である。

そこでマスカラ瓶の払拭パッキン体の口径を可変とし、払拭効果を変えて塗料量を調節するようにしたものが案出されている（特開昭54-88445号公報）。

考案が解決しようとする問題点

このパッキン体の口径を可変としたものは、

実際に使用してみると、パッキン体がゴム等よりなり、塗布具を弾性的に擦るようになっていたため、口径を変化させても払拭効果はあまり変化せず、塗着量の調節は不十分である。

そこで本考案は、十分な塗着量調節の可能なマスカラ塗布具を実現することを目的として案出されたものである。

問題点を解決するための手段

本考案のマスカラ塗布具は、口部に払拭パッキン体を有するマスカラ瓶に出入させて使用するマスカラ塗布具において、軸体の先端部に、中央から外方へ放射状に伸びる毛体を有するブラシを設け、このブラシの周端近くに軸方向に伸びる仕切部材を設けてブラシの毛先面を2以上の部分に仕切り、この各部分に、幅、仕切部材からの毛先の突出凹陥程度または毛体の密度の異つたものを設けたものである。

作用

したがってこのマスカラ塗布具では、ブラシの仕切部材によつて仕切られた各部分の状態が

異っているので、マスカラ瓶に差込みマスカラを付着させた後、払拭パツキン体で拭つて引出すと、各部分に付着しているマスカラの量が異なり、またまつげへの塗着のしやすさも異なる。すなわち幅の広い部分では、パツキン体がブラシの奥深くまで払拭するのでマスカラの付着量は少なくなり、塗着量も少ない。毛先が仕切部材から多く突出する部分では、この突出した毛体部分のマスカラはほとんど拭われるので、塗着量が少ない。また毛体の密度が過大あるいは過少であるとマスカラの付着量が少なく塗着量も少なくなる。よつてこの各部分を使い分けることによりマスカラの塗着量を変えることができる。

実施例

以下本考案を図示する実施例について説明する。

第1図、第2図は第1実施例のマスカラ塗布具10を示す。この塗布具10は軸体11の先端にブラシ12を設け、さらにこのブラシ12の周端近く

に 2 本の棒状の仕切部材 13,14 を設けたものである。このブラシ 12 は、毛体を 2 本の針金の間に挟み、針金を捩って固定したものであり、毛体は中心から外方へ放射状に伸びている。仕切部材 13,14 はブラシ 12 周端に沿って伸び、ブラシ 12 の毛先面を 2 つの部分 15,16 に仕切り、部分 15 は部分 16 より幅が狭くなっている。

したがってこの塗布具 10 では、マスカラ瓶に入れてマスカラを付着させ、パツキン体で払拭して取出すと、第 2 図に示すように、マスカラ M は、部分 15 ではわずかに拭われるだけで毛体先端近くまで付着しているのに対し、部分 16 ではほとんど拭われ毛体の奥深い部分にあるだけとなる。このため部分 15 を用いて塗布すると多量のマスカラが塗着され、部分 16 を用いると少量のマスカラが塗着される。

第 3 図は第 2 実施例のマスカラ塗布具 20 を示す断面図である。この塗布具 20 も前記塗布具 10 と同様に軸体先端にブラシと仕切部材を設けたものであるが、その形状配置が変更されている。

ブラシ21の周端近くに4本の仕切部材22,23,24,25が設けられ、これらの仕切部材はすべて同一形状であり、同一間隔に配置され、毛先面を4つの同一幅の部分26,27,28,29に仕切っている。ブラシの毛体先端は、部分26では仕切部材からやや凹陷し、部分27ではわずかに突出、部分28では少し多く突出し、部分29では大きく突出している。

この塗布具20をマスカラ瓶からパツキン体で払拭しつつ取出すと、図示するようにマスカラMは各仕切部材22,23,24,25の端をつなぐ面内にのみ残るよう払拭されるので、部分26を用いて塗布すると、まつげはマスカラM内に深く進入し、多量のマスカラが塗着され、部分27を用いると塗着量はやや少なくなり、部分28を用いるとさらに少なくなり、部分29では最少となる。

第4図は第3実施例のマスカラ塗布具30を示す。この塗布具30では、ブラシ31の周端近くに2本の仕切部材32,33を設けたものである。この仕切部材32,33は毛先面を幅の等しい2つの

部分 34, 35 に仕切り、ブラシ 31 の毛体は一方の部分 35 により多く集められ、毛体の密度が高められている。

この塗布具 30 をマスカラ瓶に入れマスカラ M を付着させると、毛体の密度の差異に応じて両部分 34, 35 のマスカラ付着量が異なり、塗布した際の塗着量が異なる。毛体の密度とマスカラの付着量の関係は複雑であり、一概に述べることはできないが、毛体間に若干の空隙があるような密度のときマスカラ付着量は最大となり、この状態より密度が大きくなつて、小さくなつても付着量は減少する傾向がある。

第 5 図は第 4 実施例のマスカラ塗布具 40 を示す。この塗布具 40 はブラシ 41 の周端近くに 3 本の仕切部材 42, 43, 44 を設け、毛先面を部分 45, 46, 47 に仕切つたものである。これらの各部分 45, 46, 47 の幅はそれぞれ異なり、さらにブラシ 41 の中心を仕切部材の中心から偏心させることにより、各部分の毛先の突出凹陷程度、毛体の密度も不均一となつている。

したがってこの塗布具40をマスカラ瓶に入れてマスカラを付着させ、使用すると、マスカラMの塗着量は各条件が複合され、各部分ごとに異なったものとなる。図示の形状配置では部分45で最大の塗着量が得られ、部分46が中程度、部分47で最小の塗着量となる。

本考案のブラシ、仕切部材の形状配置は上記の各実施例に限らず多様な構造が考えられることはいうまでもない。

上記各実施例では、毛先面の各部分の構成がすべて異なっているものであるが、各部分のうち同一構成のものがあってもよいことは勿論である。

さらに仕切部材の外表面等に横溝、縦溝、凸条等を形成し、この部分を用いてマスカラを塗着したり伸ばしたりすることができるようにし、より多様な使用法ができるようにしてもよい。

考案の効果

本考案のマスカラ塗布具は、上述のように、ブラシの部分により、マスカラの付着量等が異

なるので、各部分を使い分けることにより多様な塗着量が得られ、使用者の好みに応じ、濃淡自在にマスカラを塗着することができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の第1実施例の斜視図、第2図は前図のⅡ-Ⅱ線に沿う横断面図、第3図は第2実施例の横断面図、第4図は第3実施例の横断面図、第5図は第4実施例の横断面図である。

10,20,30,40 マスカラ塗布具、 11 軸体、
12,21,31,41 ブラシ、 13,14,22,23,24,25,
32,33,42,43,44 仕切部材、 15,16,26,27,
28,29,34,35,45,46,47 ブラシの毛先面の部
分、 M マスカラ。

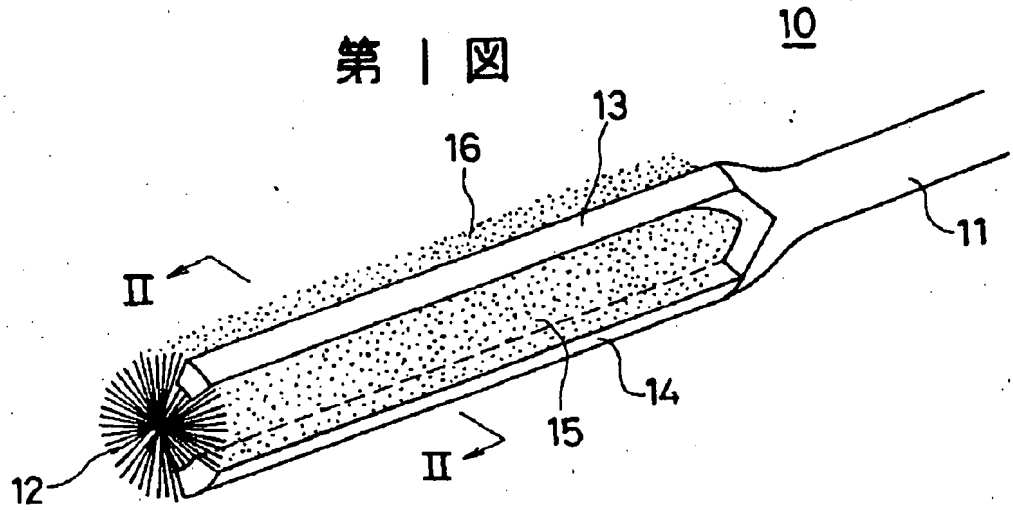
実用新案登録出願人

益山興業株式会社

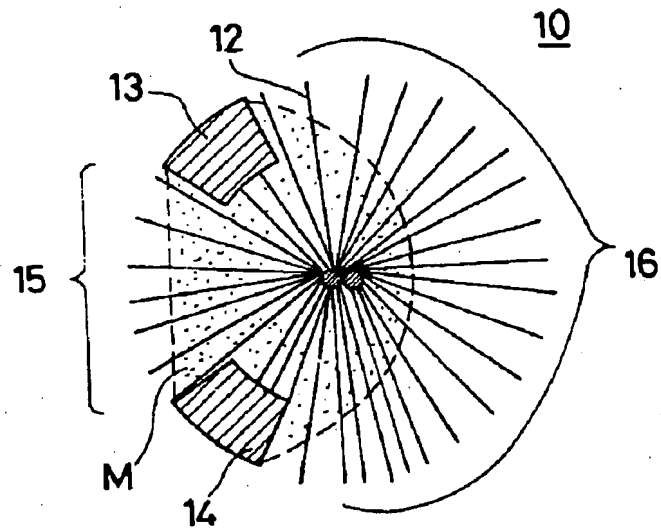
代理人

弁理士 寺田 正 外1名

第 1 図



第 2 図



151

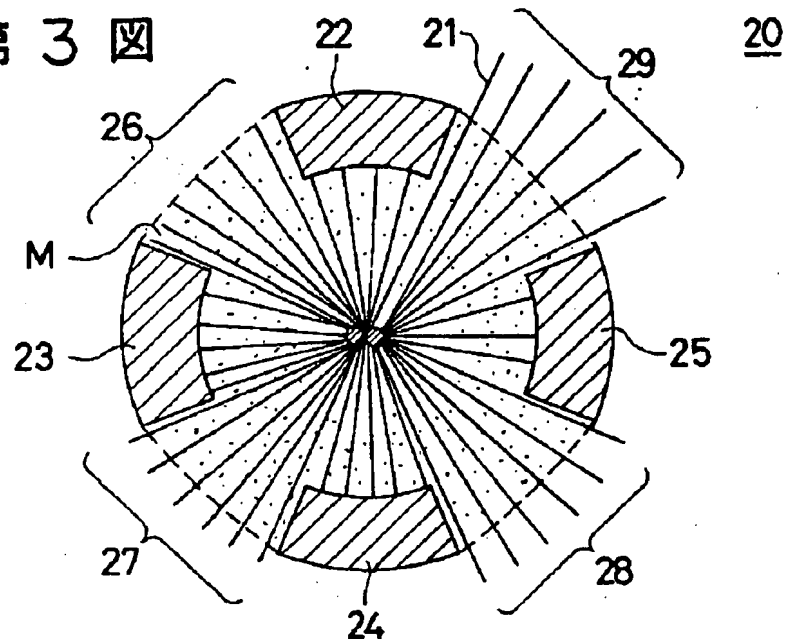
実開62-58515

寺 田 全 登 氏

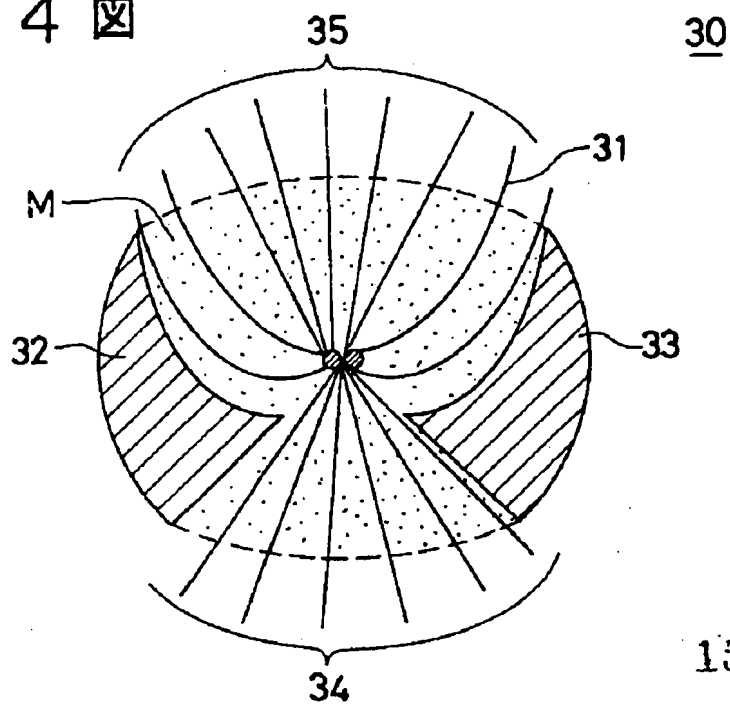
正 外 1 名

特許代理人
山本 誠
山本 誠
山本 誠

第 3 図



第 4 図



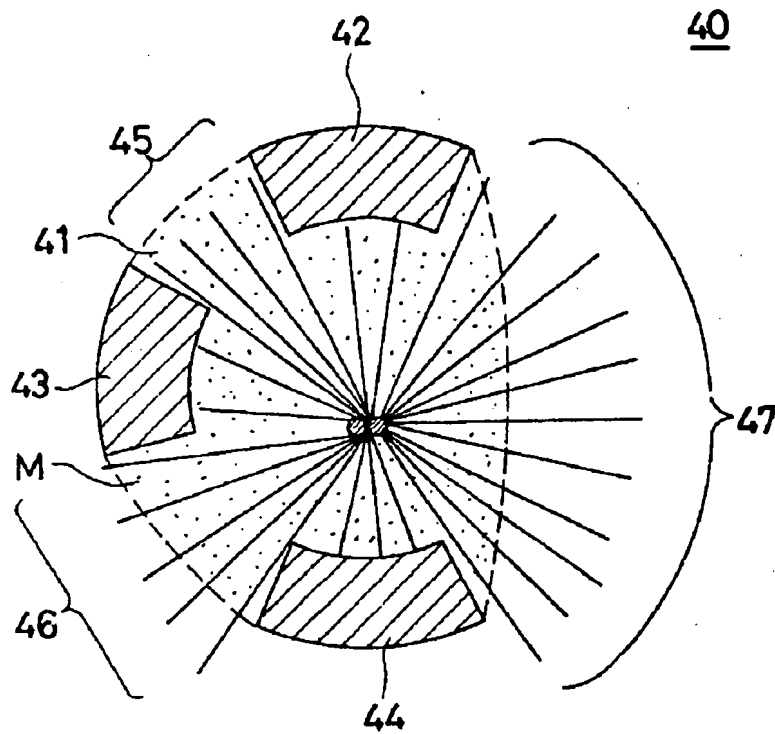
152

実附C2-58515

田 寺 全 聖 界

正 外 1 名

第 5 図



153

寺田 全 羅 峯

実用(2-58515)

正外1名